

第3学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

命を大切に「D-(18) 生命の尊さ」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

命の尊さを知り、命あるものを大切にす道徳的心情を育てる。

(2) 教材名

「いただきたいのち」(東京書籍 新しいどうとく3)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編小学校第3学年及び第4学年の「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の指導事項「(18) 生命の尊さ」 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすることを受けている。

生命を大切にす尊重することは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直にんえようとする心の表れと言えり。生命とは、連続性や有限性を有する生物的・身体的生命、更には人間の力を超えた畏敬されるべき生命として捉えり。生命のもつ侵し難い尊さが認識されることにより、生命はかけがえのない大切なものであり、決して軽々しく扱われてはならないという態度が育まれる。生命の尊さを概念的な言葉での理解とともに、自己との関わりで、生きることのすばらしさや生命の尊さを考え、自覚を深められるように指導することが大切である。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願ひ

児童は、今までの学習を通して、生命は大切であるとういことを分かっている。しかし、改めて、生命について考える機会は少ない。また、この時期になると、現実性をもって死を理解できるようになる。そのため、自分の命だけでなく他人の命も大事であるとういこと実感を持って考えることが大切である。生命は唯一無二であることや、自分一人のものではなく、多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであることについて考えたり、与えられた命を一生懸命に生きることのすばらしさについて考えたりすることが大切である。併せて、自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする道徳的心情を育てていきたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、血液のがんになって入院したゆきとゆきを支えるお母さんの気持ちを考えることを通して、生命の尊さについて考えることができる教材である。お母さんの「ゆきは、たくさんの人からのちをいただいたのよ」という言葉から、生命のかけがえのなさについて、多面的・多角的に考えさせる。そのため、お母さん、ゆきだけでなく、学校の友達の立場でも気持ちを考えさせ、自分が元気になったのは、お母さんや家族、友達の思いや、見えないところで動いてくれている人達のおかげだとうい感謝についても考えさせる。また、自分の生命は、多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであることについて深く考えさせたい。

4 学習指導過程

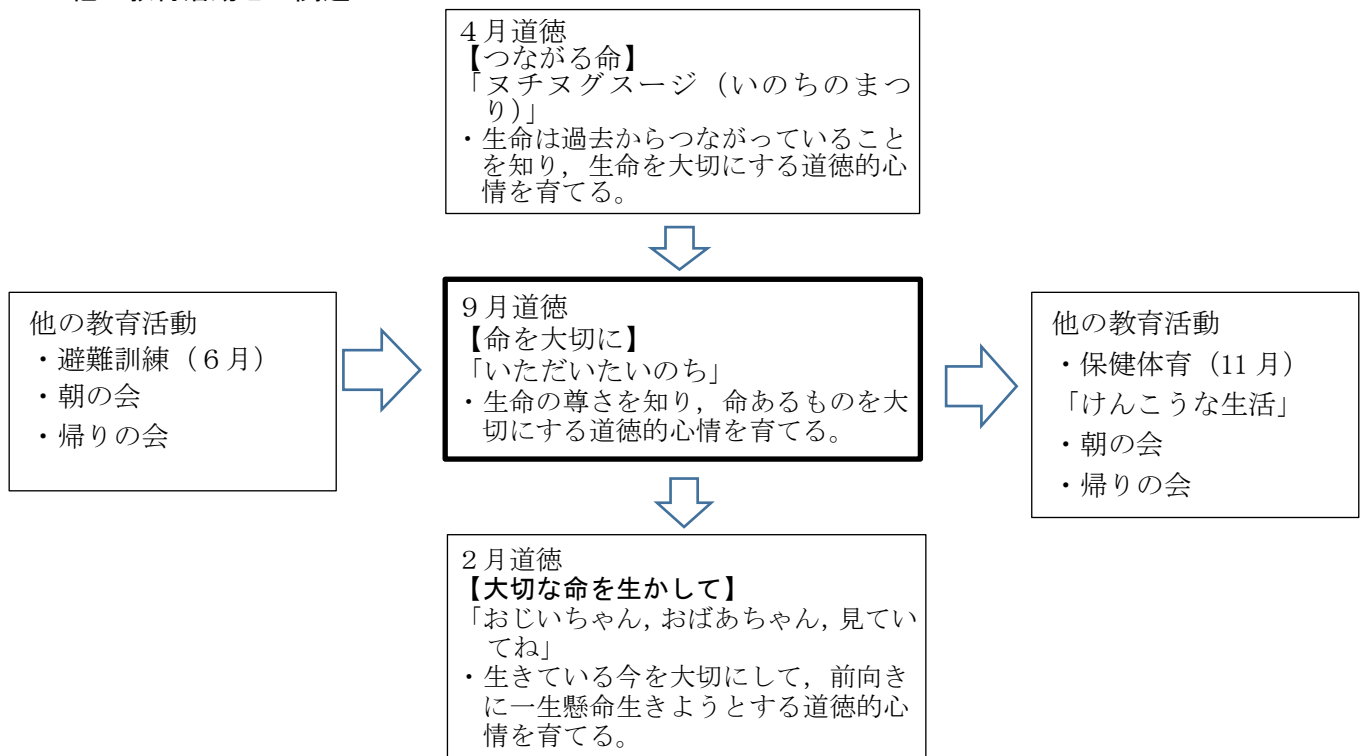
	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ これまで、命が大切だと思ったことは、ありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃんやおばあちゃんが亡くなったとき。 ・妹や弟が生まれたとき。 ・入院したりしたとき。 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">命の大切さについて考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに怪我や病気をしたときのことを想起させ、命について考えるという課題に対して、問題意識を持たせる。
展開 前 段 15分	<p>3 登場人物の心情を自分との関わりで捉える。</p> <p>○ 入院している間、お母さんや家族はどのような気持ちで過ごしていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心配。 ・本当に治るのかなあ。 ・早くよくなってほしい。 <p>○ 友達は、ゆきの病気を聞いて、どのように思っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悲しい。 ・大丈夫かなあ。 ・かわいそう。 ・心配 <p>○ ゆきは、入院している間、どのような気持ちで過ごしていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く良くなりたい。 ・学校に行きたい。 ・お母さんに心配を掛けたくない。どうなってしまうんだろう。 ・こわい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文が長いため、すぐに内容について話合えることができるように、事前に教材を読ませておく。 ・お母さんやゆきの気持ちを自分との関わりで考えさせるために、自分が病気になった時などのことを想起させる。 ・想像ができないときは、自分の友達が入院したらどのようなことを思うか考えさせるために、補助発問を用意する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>補助発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の友達が入院したら、どのように思っていますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的に考えさせるために、お母さんの気持ち、友達の気持ち、ゆきの気持ち、それぞれの立場から考えさせる。
展開 後 段 20分	<p>○ お母さんや友達はゆきのためにどのようなことをしましたか。</p> <p>友達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙や絵を書いて渡す。 ・応援の手紙。 ・ゆきちゃんは、勇気がでる。 ・血をくださいという呼びかけの手紙。 <p>お母さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・励ます。 ・看病する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入院している間に、お母さんや友達がゆきのために思っていたことやしていたことを考えることを通して、周りの人に支えられて生きていることに気付かせる。 ・友達が病気になったとき、自分は何ができるか、それはどのような思いなのか考えさせることを通して、自分との関わりで考えさせる。 ・呼び掛けの手紙によって、献血をしてくれる人が集まったことを考えることを通して、家族や友達以外にも、支えてくれた人がいたこ

	<ul style="list-style-type: none"> ・元気付ける。 <p>4 命の大切さについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎ お母さんに「ゆきは、たくさんの人から、いのちをいただいたのよ。」と言われたゆきは、どのようなことを考えたでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の友達や血液をくれた人のおかげだと思う。 ・家族が支えてくれたから、頑張ることができた。 ・たくさんの人から命をもらったのだから、感謝したい。 ・みんなに感謝してこの命を大切にしようと思った。 ・私は、いろいろな人に命をもらったんだな。私もそういう優しい人になりたい。 	<p>とに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを整理するために、自分の考えをノートに書かせる。 ・多面的・多角的に考えるために、ペアで話した後、全体で話し合い、多様な考えに触れさせる。 ・命は、自分一人のものではなく、多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであることについて、考えさせる。
<p>終末5分</p>	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 今日の学習を通して、命の大切さについてどのようなことを思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命は、当たり前にあると思っていたけれど、みんなに支えられて生きているんだと思った。 ・家族のためにも、命は大切。大事にしようと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるために、振り返りの視点を示す。

【評価】

ゆきと家族、友達の心情を考えることを通して、命の大切さについて自分との関わりで考えようとしていたか。

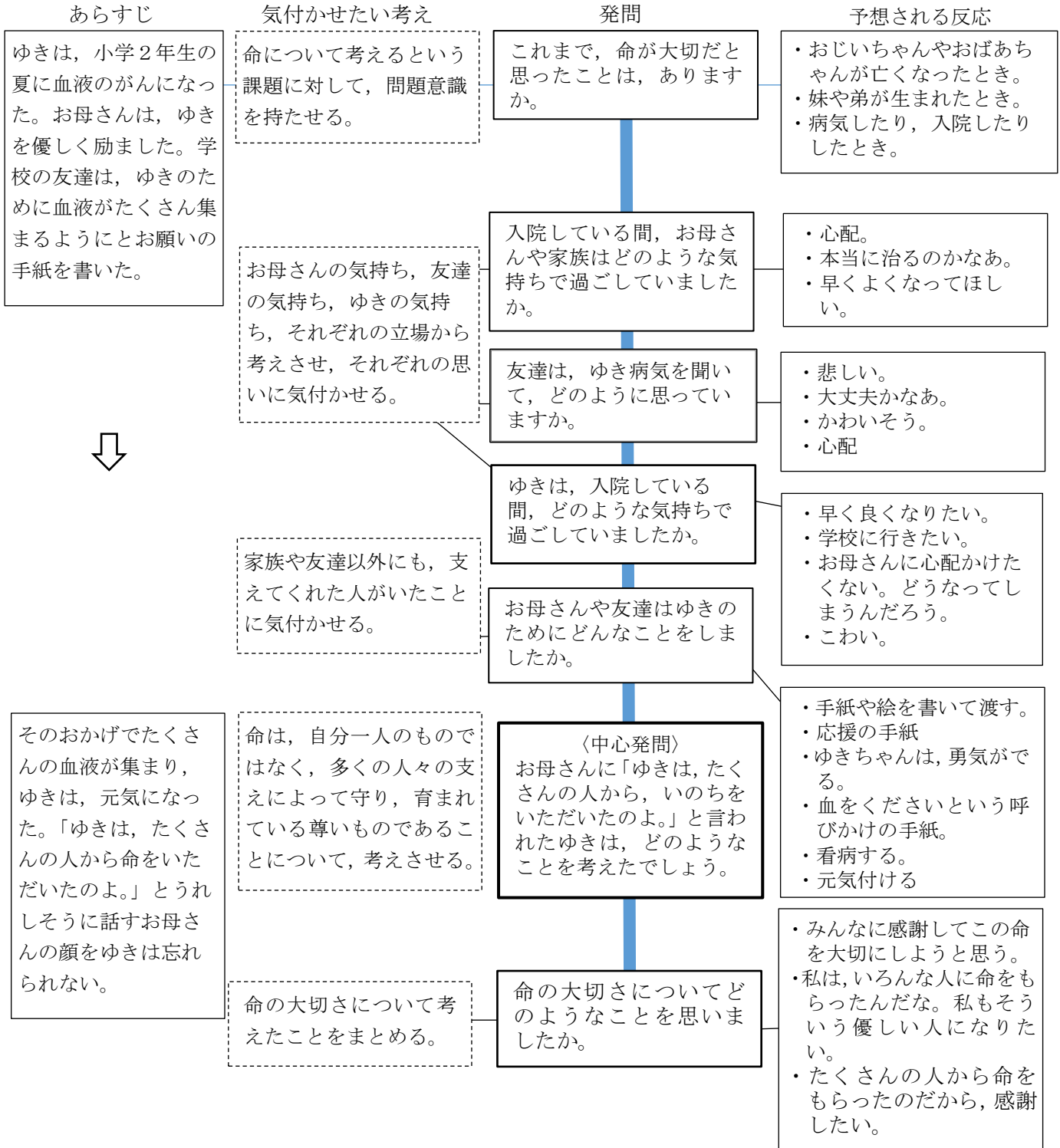
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

この教材は、登場人物の心情を様々な立場から考えることで、命は、多くの人に支えられて守られていることに気付かせることができる教材である。生命は、自分一人のものではなく、多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであるということについて深く考えさせたい。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

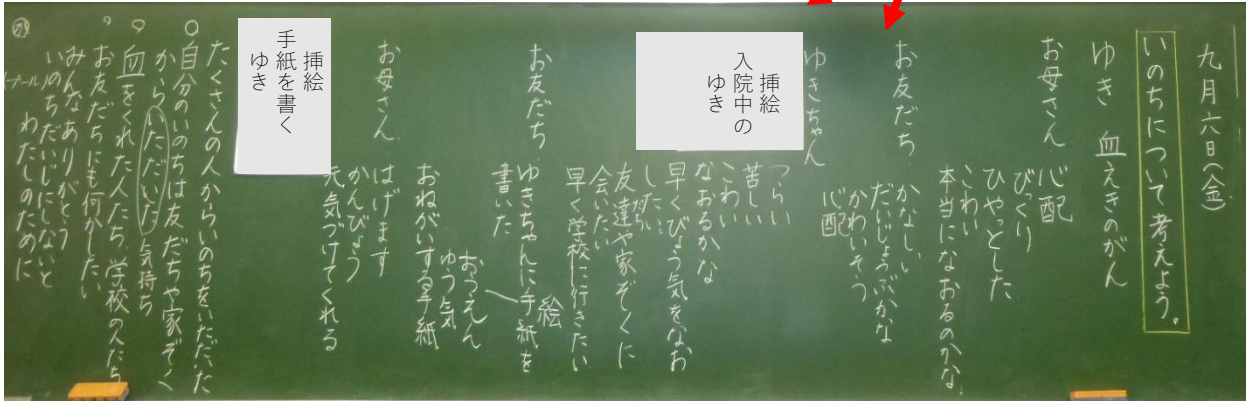
教師：教科書、場面絵

児童：教科書、ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

それぞれの立場から考えさせるために、見比べることができるようにした。



(1) 導入

問題意識を持たせた

- 怪我や入院したときの経験を振り返り、その時の自分の気持ちや家族の気持ちを想起させることで本時の「命について考える」という課題に対して、問題意識をもたせることができた。

実際のやり取り

- T 「今まで命が大事だなと思ったことありますか」
- C 「怪我した友達を見て、あー、大丈夫かなと思って」
- C 「はちに刺されたとき、大変だった」
- C 「ぜんそくで入院した」
- T 「入院したときの気持ち覚えてる」
- C 「覚えてる」
- T 「お母さんやお父さんはどんな気持ちなのかな」
- C 「心配していた」
- C 「怪我したときにお父さんに叱られた」
- T 「お父さんが叱った気持ちの奥にどんな思いがあるんだろうね」
- C 「心配している・・・」
- T 「そうだね。きっと心配しているね。今日はね、命についてみんなで考えていきます」

(2) 展開

登場人物の立場に立ちながら考えさせることで、自分との関わりで捉えさせた

ゆきが血液の病気だと聞いたお母さんや学校の友達の気持ちを、自分だったらどのように思うか、想像させながら登場人物の心情を捉えさせた。また、多面的・多角的に考えるために、入院しているゆきの気持ちも考えさせ、それぞれの立場から登場人物の心情を捉えさせた。

- 「自分の友達が入院したら」「自分が入院したら」「入院しているときのお母さんの気持ちは」と問うことで、登場人物に自分を置き換え、様々な側面から考えさせることができた。
- 血液のがんという、児童には馴染みのない病気のため、やり取りの中で治療には、たくさんの血液が必要であり、そのために、学校の友達が献血を呼び掛けるポスターを作ったことや献血をしてくれた人達がいたことに気付かせ、中心発問『たくさんの人から、いのちをいただいたのよ。』とお母さ

んに言われたゆきは、どのようなことを考えたでしょう。」に、つなげることができた。

実際のやり取り

- T 「白血病という病気を聞いたことがありますか」
C 「ない」
C 「テレビで聞いたことがある」
T 「白血病は、治療のためにたくさんの血液が必要になります」
T 「献血という言葉を知ったことがありますか？」
C 挙手
T 「16歳になったら献血することができるんだよ」
T 「血液のがんと聞いたとき、ゆきちゃんのお母さんやお友達はどのようなことを思いましたか」
C 「……………」(小さなつぶやき)
T 「自分の友達が血液のがんと言われたらどのように思いますか」
C 「こわい、さみしい、悲しい」
C 「すごく心配」
T 「ゆきちゃんが入院している間は、お母さんはどのような気持ちですか」
C 「家の中が暗くなる」
T 「暗くなるということは、どのような気持ちですか」
C 「悲しくなる」
T 「暗くなるって事は、悲しいって気持ちなのですね」
C 「早く治って欲しい」
C 「そばにずっといたい」
T 「どうしてずっとそばにいたいのか」
C 「心配だから」
T 「入院しているゆきちゃんはどうな気持ちで入院していますか」
C 「寂しい」
C 「お母さんや先生に会いたい」
C 「いろんなところへ行きたい」
C 「病気を早く治して学校に行きたい」
C 「勉強して遊びたい」
C 「検査や治療やだ、痛いから」
C 「友達が心配しているから、悪いなあ」
T 「周りの人に心配掛けてわるいなあと、自分も治療しているのに悪いなあって思うの？」
C (うなづく)

(3) 終末

自己の生き方について考えさせた

- 終末では、今日の命の大切さを考える授業を通して、考えたこと、分かったこと、これからどうしたいかをノートに書かせることで、児童がこの時間にどのようなことを大事に思ったのか見取ることができた。

児童の記述

- ・命は本当に本当に大切なんだなと思いました。自分で命を大切にしないとと思いました。ゆきさんの辛い気持ちがとてもとても分かりました。
- ・命は、いろんな人が一緒に守ってくれているんだなあと思いました。
- ・人の命を守るために、優しい人達がいるんだなあと思いました。
- ・お互いに、助けたり、助けてもらったりするから、命はとても大事。
- ・命は大事だと思った。誰かの命に関わる仕事をやりたいと思いました。